

## インフォメーション No. 2

愛する兄弟姉妹の皆さん、

アリッチャのディヴィン・マエストロ・ハウスから皆さんすべてにあいさつを送ります。聖パウロ修道会第 9 回総会の作業は、総会の核となる種々の担当者の選挙の後、大まかな日程の承認をもって始まりました。今後の主な日程を記しておきましょう。5 月 1 日（土）と 3 日（月）には、創立から 100 年を迎えるわたしたちのアイデンティティーについての考察、5 月 4 日（火）には、わたしたちの諸法規についての考察がなされます。5 月 5 日（水）から 12 日（水）までは、今後 6 年間の指針（全体目標、優先事項、活動方針）の作成がなされます。最終文書の承認は 5 月 14 日（金）になされません。5 月 7 日（金）には新しい総長の選挙が予定されており、前日の 6 日（木）は識別の時間をとることになっています。総長選出の後には、指針作成と並行しながら、総顧問たちの選挙がおこなわれます。11 日（火）からは、種々の動議も取り扱います。5 月 2 日と 9 日の日曜日は小休止の日で、この時間を利用してイタリアの美を味わうためトウシアとカゼルタを訪れることになっています。

この 2 日間、わたしたちは上級長上たちの報告と、特に総長の報告を聞き、考察をしました。いく人かの長上は、管区・地区の現状をより明確に理解させようと、ビデオやメディアを使つてのプレゼンテーションをおこないました。わたしたちの現状は、生き生きとしていて、多様であり、多くの「光」とともに「闇」も見られます。そこには、特に、修道会への強い帰属意識を持ち、コミュニケーションの文化の中でキリストを告げ知らせようと努める人々がいます。

総長シルヴィオ。サッシ神父のおこなった修道会の現状報告は、非常に率直で明瞭なものでした。総長は、わたしたちがパウロ的カリスマという大きな賜物を受けていることを強調しました。この賜物は、わたしたちの父親である聖パウロが指摘する「確かな信仰」をわたしたちの中に燃やすはずで、わたしたちは神とともに働く者です。この働きはわたしたちのものではありません。単なる人間的働きではないからです。この賜物は、同時に、わたしたちが実りをもたらさなければならないものです。わたしたちの忠実は、まさに創造的でなければならないのです。サッシ神父は、結びに、創立者の精神を身に負いつつ、第三の千年期のための新しい福音宣教のプロジェクトという「挑戦」を投げかけました。第三の千年期のコミュニケーションにおけるこの福音宣教が忠実かつ創造的であるためには、アルベリオ・ネ神父が用いた基準を備えていなければなりません。それは、「他の人々に自らを伝えることが必要とを感じるような**信仰体験**、教会、社会、そしてコミュニケーションの文化が今日必要としていることを**知ること**、『今日、生きる聖パウロ』であるという**宣教的目標**」です。シルヴィオ神父は、最後に、総長としての 6 年間の奉仕を終えるにあたって、総顧問たち、総秘書、総会計、聖座担当官、上級長上たち、そして総本部修道院のすべての会員たちに感謝の意を表し、感涙のうちにフランチェスコ・ケッサ修道士のことを思い起こしました。

総会は、これから小さなグループに分かれて、創立から 100 年を迎えるわたしたちのアイデンティティーについて考察する作業を続けます。わたしたちは、特に今から、皆さんすべての祈りの力に多大な期待を寄せています。わたしたちが、創立から 100 年を迎える修道会に、第三の千年期のための新たな創造的動力を与えるような方針を打ち出すことができるようお祈りください。

最後に、ある会員から指摘されたインフォメーション No. 1 の誤りについて、おわびいたします。総会の公式言語はイタリア語です。一方で、総会中、イタリア語、英語、スペイン語の同時通訳がおこなわれます。

2010 年 5 月 1 日、アリッチャ（ローマ）

インフォメーション担当：アントニオ・リッツォーロ神父

### IX CAPITOLO GENERALE